

## 琉球列島から得られたニザダイ科魚類 シノビテングハギ *Naso tergus* の記録

松沼瑞樹<sup>1</sup>・桜井 雄<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 〒 8851-2213 長崎市多以良町 1551-8 西海区水産研究所

<sup>2</sup> 〒 900-0003 沖縄県那覇市安謝 2-6-19 沖縄環境調査株式会社

<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

ニザダイ科テングハギ属のシノビテングハギ *Naso tergus* Ho, Shen and Chang, 2011 は、タイプ産地である台湾のほか、フィリピンおよび日本のトカラ列島中之島からのみ分布が確認されていた (Ho et al., 2011; 松沼・本村, 2013; Matsunuma et al., 2013). 2014年5月に、沖縄県那覇市の鮮魚店(泊いゆまち)で1個体のシノビテングハギが得られた。奄美群島から八重山諸島までの琉球列島で漁獲された本標本は、日本国内におけるシノビテングハギの2例目の記録であり、南日本を含める東アジア周辺海域における本種の広域分布を支持する。日本とその周辺海域における魚類の分布とその形成要因を理解するためには証拠標本に基づく分布情報の蓄積が重要であり、これに寄与するためにも本標本を記載し報告する。

### 材料と方法

計数・計測は Ho et al. (2011) にしたがって、Ho et al. (2011) で説明されていない項目は松沼・本村 (2013) に詳述されている。記載は琉球列島から得られた1標本に基づく。色彩の記載は、生鮮標本のカラー写真 (Fig. 1) に基づく。色彩の表記は財団法人日本色彩研究所 (2001) の系統色名

に準拠した。本報告で調査した標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されている。

### 結果と考察

*Naso tergus* Ho, Shen and Chang, 2011

シノビテングハギ (Figs. 1, 3)

**標本** KAUM-I. 61542, 標準体長 360.9 mm, 琉球列島 (奄美群島から八重山諸島), 桜井 雄, 沖縄県那覇市の鮮魚店で購入, 2014年5月23日。

**記載** 背鰭 VI, 27. 臀鰭 II, 26. 胸鰭 16 (最上の1本のみが不分枝). 腹鰭 I, 3. 鰓耙数 4 + 12 = 16. 体各部の体長に対する割合 (%) は下記の通り: 頭長 23.8; 体高 31.6; 体幅 11.1; 背鰭前長 25.3; 胸鰭前長 23.2; 腹鰭前長 27.3; 臀鰭前長 36.6; 吻長 13.0; 眼径 6.1; 両眼間隔幅 9.2; 上顎長 5.4; 眼下幅 8.6; 第1背鰭棘長 11.5; 第2背鰭棘長 9.8; 第3背鰭棘長 10.5; 第4背鰭棘長 10.0; 第5背鰭棘長 9.8; 第6背鰭棘長 8.5; 胸鰭長 15.6; 腹鰭棘長 10.6; 第1臀鰭棘長 8.3; 第2臀鰭棘長 6.9; 尾柄長 8.0; 尾柄高 4.3; 尾柄幅 5.3; 尾鰭湾入長 16.1; 尾鰭長 23.7.

体はやや側扁し、細長い; 全身の輪郭は側面からみたとき横に細長い楕円形。尾柄は円筒形で、後方に向かってよくすぼまり、後部の背側と腹側に発達した欠刻をもつ。後頭部から吻にかけての頭部背縁の輪郭はほぼ直線で、突出部はない。頭部腹縁の輪郭も、背縁のそれと同様だが、やや丸みをおびる。躯幹部から尾部にかけての背縁の輪郭は背鰭第2-3軟条の基部を頂点として、ゆるや

Matsunuma, M., Y. Sakurai and H. Motomura. 2015. Record of *Naso tergus* (Acanthuridae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 149-152.

✉ MM: Seikai National Fisheries Research Institute, 1551-8 Taira, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k1139853@kadai.jp).

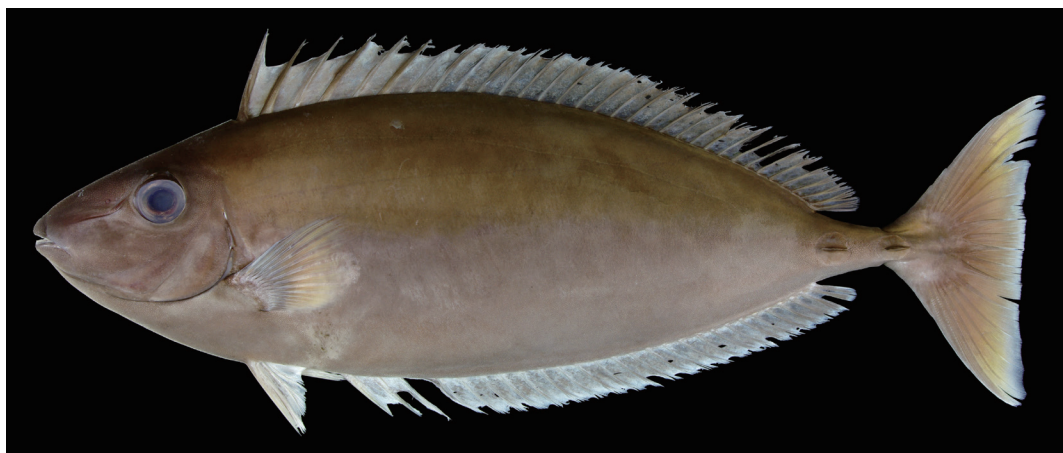


Fig. 1. Fresh specimen of *Naso tergus* from the Ryukyu Islands, Japan (KAUM-I. 61542, 360.9 mm standard length).

かな曲線をえがく；腹縁の輪郭は臀鰭第1軟条の基部を頂点として、背縁と同様な曲線をえがく。鼻孔は眼の前方に2つある。前鼻孔は後鼻孔よりわずかに大きく、開口部に薄い肉質の縁をもち、後縁にごく小さな三角形の皮弁をもつ。後鼻孔は単純な孔で、眼と前鼻孔の間の中央よりやや前方に位置する。眼の前方に1本の溝があり、眼の前縁から斜め前下方へ向かい、斜走する部位での幅は深い。前鼻孔の下方で、向きを前方にかえ直走し、前方に向かって幅は狭く、かつ浅くなる。溝は口裂後端のレベルで終わる。口はわずかに突出し、両顎歯は1列で細長く、よく尖る。頭部と体は、下唇の後方を除いて微細で粗雑な鱗に覆われる。各鰭の鰭条も同様な鱗に覆われるが、鰭膜と胸鰭基底の関節部は無鱗。尾柄側面に概ね円形の2個の固着した骨質板があり、翼状の隆起縁が発達する。隆起縁の前方は鉤状に湾曲し、その先端はよく尖る。側線はほぼ眼の後方の主鰓蓋骨上端付近から始まり、尾柄前方の骨質板の直前で終わる。背鰭基部は主鰓蓋後端の上方にある。棘条部は軟条部よりも高く、軟条部は後方に向かうにつれてやや低くなる。背鰭棘は、第1棘が最長で、第2-5棘はほぼ同長。臀鰭基部は背鰭第3棘下にある。胸鰭は上から3本目の鰭条が最長で、それより下方の鰭条は徐々に短くなり、鰭の後縁は円みをおびる。腹鰭は胸鰭基底下に位置し、第1軟

条が最長。尾鰭は、ほぼ截形。鰭の上・下縁の鰭条は伸長しない。

**色彩** 頭と体は一樣にグレイで模様がなく、背部が茶色みがかかる (Fig. 1)。背鰭は模様がなく、体と同様なグレイで、縁辺は細く灰みの白で縁どられる。臀鰭の色彩は背鰭と同様で目立った模様がなない。胸鰭は鰭条が薄い黄色みのグレイ、鰭膜は半透明。腹鰭は明るいグレイ。尾鰭の地色は躯幹部と同様に明るいグレイ、後方に向かうにつれて黄みがかかり、縁辺は細く灰みの白で縁取られる。尾柄の骨質板は体と同様なグレイで、やや黒みがかかる。

**同定** 琉球列島から得られた標本は、背鰭が6棘27軟条、臀鰭が2棘26軟条、尾鰭が截形、尾柄側面に前方に湾曲し尖る骨質板が2つある、体と鰭はほぼ一樣にグレイで模様がない、などの特徴が Ho et al. (2011) や松沼・本村 (2013) による *N. tergus* の記載とよく一致したため、本種に同定された。

なお、シノビテングハギは日本産のニザダイ科を整理した島田 (2013) に掲載されていないが、同文献の検索表にしたがい本種の標本の同定を試みるとテングハギモドキ *Naso hexacanthus* (Bleeker, 1855) に至る。シノビテングハギとテングハギモドキは色彩が明瞭に異なる (Ho et al., 2011; 松沼・本村, 2013)。前者は頭部と体がほ

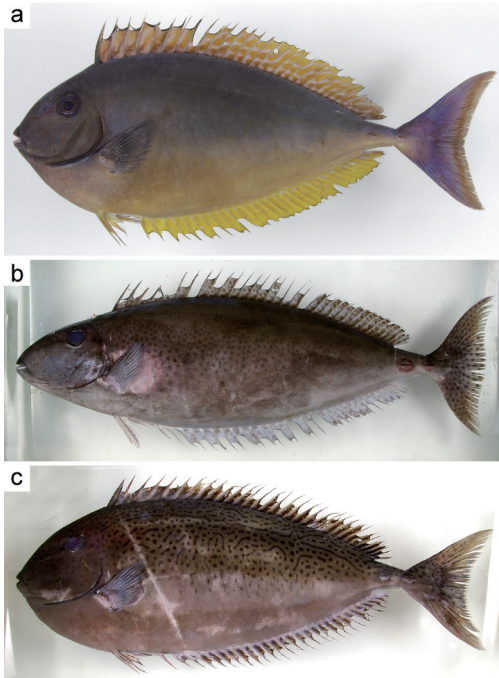


Fig. 2. Fresh specimens of (a) *Naso hexacanthus*, KAUM-I. 46007, 233.7 mm standard length (SL), Yoron Island, Ryukyu Islands, Japan; (b) *Naso lopezi*, KAUM-I. 28767, 464.8 mm SL, Koshiki Islands, Kagoshima, Japan; and (c) *Naso maculatus*, KAUM-I. 29385, 394.1 mm SL, Uji Islands, Kagoshima, Japan.

ぼ一様に灰色で (Fig. 1), 後者は頭部と体が暗い茶色で腹側が黄色みがかかり, さらに鰓孔周辺が黒色で縁取られる (Fig. 2a). また, 前者は, 背鰭と臀鰭, 尾鰭が体と同様の灰色で縁辺が白く縁取られるだけで一切の模様がないのに対して, 後者は背鰭と臀鰭が黄色で, 細い帯あるいは網目状の白色の模様があり, 尾鰭は暗い青色で後縁が茶色で縁取られる. これら2種は, 色彩のほかにも胸鰭鰭条数や鰓耙数, 体形にも有意な差異が認められる (Ho et al., 2011; 松沼・本村, 2013). テングハギモドキ以外の日本産テングハギ属魚類のうち, 体がやや細長い, 頭部背面に突出部がない, 尾柄側面の骨質板が2つなどの特徴をもつことで, ナガテングハギモドキ *Naso lopezi* Herre, 1927 とゴマテングハギモドキ *Naso maculatus* Randall and Struhsaker, 1981 もシノビテングハギと似る (Fig. 2b, c). しかし, これら2種は, 体と鰭に多数の暗色点あるいは波線状の模様があることで,

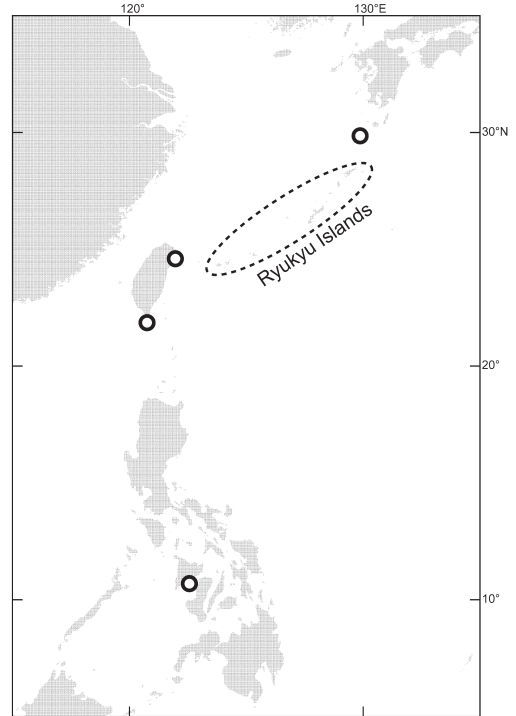


Fig. 3. Distributional map of *Naso tergus*. Solid line circles and broken line circle indicate the previously known records and approximate locality of the present specimen, respectively.

まったく模様のないシノビテングハギと一見して識別される (本研究).

**分布** 本種は, 台湾から得られた13個体の標本をもとに新種として記載された (Ho et al., 2011). その後, トカラ列島の中之島 (松沼・本村, 2013), フィリピン・パナイ島のイロイロ (Matsunuma et al., 2013), および奄美群島以南の琉球列島 (本研究) からそれぞれ1個体がいずれも市場や商店を介して得られた (Fig. 3). 本種は, 散発的であるもののフィリピンから南日本の各地から記録されたことから, 東アジア周辺海域に広く分布すると考えられる.

**備考** 台湾やトカラ列島から得られたシノビテングハギの個体は, おそらくフィリピンの個体群に由来し, 黒潮によって回遊してきた可能性が指摘されている (Matsunuma et al., 2013). また, 第2著者による琉球列島における20年以上にわたる魚類相調査等において本種が観察されていない

こと、および琉球列島における魚類相調査はこれまで比較的盛んに行われているが、これらの調査で本種が記録されていないことから (Senou et al., 2007; 本村・松浦, 2014 など), 琉球列島に生息する本種の個体数は著しく少ないと推測される。したがって、本研究で琉球列島から得られた個体は黒潮の偶発的に来遊したもので、台湾以南の個体群に由来すると考えるのが妥当である。ただし、台湾産のシノビテングハギは水深70–80 mから得られており (Ho et al., 2011), 本種がごく最近、新種として記載されたことも理由であろうが、生息水深がやや深く採集しにくいことも本種の記録が少ない要因のひとつと考えられる。

また、鹿児島県の薩摩半島西岸や相模湾など九州・四国・本州の黒潮流路沿岸からは、黒潮による輸送の結果と考えられるさまざまな熱帯性魚類の成魚の記録が報告されており [テングハギ属のマサカリテングハギ *Naso mcdadei* Johnson, 2002 (瀬能ほか, 2013); アイゴ科のゴマアイゴ *Siganus guttatus* (Bloch, 1787) (伊東ほか, 2011); ブダイ科のカンムリブダイ *Bolbometopon muricatum* (Valenciennes, 1840) (荻原ほか, 2010) など], シノビテングハギも同様に、将来、九州以北の黒潮流路にあたる太平洋沿岸で採集されることが予測される。

## ■ 謝辞

標本作製等にご協力をいただいた鹿児島大学総合研究博物館・魚類分類学研究室の学生の皆様ならびにボランティアの皆様に深く感謝する。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPSアジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」, 総合地

球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Ho, H.-C., K.-N. Shen, and C.-W. Chang. 2011. A new species of the unicornfish genus *Naso* (Teleostei: Acanthuridae) from Taiwan, with comments on its phylogenetic relationship. *Raffles Bulletin of Zoology*, 59 (2): 205–211.
- 伊東正英・松沼瑞樹・岩坪洗樹・本村浩之. 2011. 鹿児島県笠沙沿岸から得られたアイゴ科魚類ゴマアイゴ *Siganus guttatus* の北限記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 161–164.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2013. 鹿児島県トカラ列島から得られた日本初記録のニザダイ科シノビテングハギ (新称) *Naso tergus*. *魚類学雑誌*, 60 (2): 103–110.
- Matsunuma, M., S. Tashiro, U. B. Alama, and H. Motomura. 2013. First record of a unicornfish, *Naso tergus* (Perciformes: Acanthuridae), from the Philippines. *Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University*, 62: 7–10.
- 本村浩之・松浦啓一 (編). 2014. 奄美群島最南端の島—与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 648 pp.
- 荻原豪太・吉田朋弘・伊東正英・山下真弘・桜井 雄・本村浩之. 2010. 鹿児島県笠沙沖から得られたカンムリブダイ *Bolbometopon muricatum* (ペラ亜目: ブダイ科) の記録. *Nature of Kagoshima*, 36: 43–47.
- Senou, H., Kobayashi Y., and Kobayashi N. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of The Kanagawa Prefectural Museum Natural Science*, (36): 47–74.
- 瀬能 宏・御宿昭彦・伊東正英・本村浩之. 2013. 日本初記録のニザダイ科テングハギ属の稀種マサカリテングハギ (新称) とその分布特性. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (42): 91–96.
- 島田和彦. 2013. ニザダイ科. Pp. 1619–1631, 2215–2218. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 財団法人日本色彩研究所 (監修). 2001. 改訂版 色名小事典. 日本色研事業株式会社, 東京. 92 pp.